

成人看護学実習 I（慢性期） / 2 学年

1. 実習目的

成人期にある人の特徴をふまえ、慢性期にある患者を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 慢性期疾患を持つ患者を多面的側面から総合的に理解することができる。
- 2) 対象の健康上の問題を把握し、自らの能力を最大限に活用し、その人らしい生活を送るための援助ができる。
- 3) 健康障害を持つ対象やその家族に対し、セルフマネジメントを推進するための学習支援や退院指導の方法を学ぶことができる。

3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
<p>1. 成人期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標 1)</p>	<p>1) 成人期の特徴をふまえて対象の発達課題について述べることができる。</p>	<p>(1)成人のライフサイクルにおける身体的・心理的・社会的特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期－身体的な成熟 <ul style="list-style-type: none"> 二次性徴 アイデンティティの形成 職業の選択 ・ 壮年期－加齢に伴う身体的機能体力の低下 <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の発生頻度の高さ アイデンティティの確立 社会的役割によるストレス 家庭での責任のある役割 ・ 向老期－身体的機能の低下 <ul style="list-style-type: none"> 生殖機能の低下（更年期） アイデンティティの再体制化 社会・家庭での役割の変化 <p>(2)社会・文化的・霊的な特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値観 ・ 死生観 ・ 宗教 ・ セクシュアリティ ・ 慣習 ・ 自己実現の欲求

一般目標	行動目標	実習内容
<p>2. 慢性期にある対象の特徴を理解する。 (実習目標 1)</p> <p>3. 成人期の特徴や健康レベルの状況を把握し、看護過程を展開する。 (実習目標 2、3)</p>	<p>2) 成人期の生活が健康に与える影響について述べるができる</p> <p>1) 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的・文化的・霊的状态について述べるができる。</p> <p>1) 対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について述べるができる。</p> <p>2) 対象の基本的ニーズの充足状況について述べるができる。</p> <p>3) 対象の全体像を把握し、説明することができる。</p>	<p>(1) 生活習慣が健康に与える影響 ・食生活・運動・休養・嗜好品（喫煙・飲酒）</p> <p>(2) 生活環境が健康に与える影響 ・家庭・学校・職業・地域・住環境・環境汚染</p> <p>(3) 社会的役割と健康の関連</p> <p>(4) 入院に伴う社会的問題</p> <p>(1) 機能障害の程度、部位 ・生活の変化によるストレス、 ・病態生理、治療、検査について</p> <p>(2) 慢性期の精神的な状況 ・不安 ・孤独 ・無力 ・疎外感 検査治療が心身に及ぼす影響</p> <p>(3) 慢性期の社会的状況 ・就業状態・経済状態 ・人間関係・家庭の状況</p> <p>(4) 文化的・霊的状态 ・万物の価値・健康への気づき、感謝 ・自己の生き方の吟味</p> <p>(1) 病態生理の把握</p> <p>(2) 症状、状態の観察</p> <p>(3) 治療方針、リハビリ、検査・治療内容</p> <p>(1) 基本的ニーズの観察</p> <p>(2) 基本的ニーズの充足、未充足</p> <p>(1) 人間像・生活像・病態像 ・日常生活の自立状況 食事・排泄・清潔・活動・睡眠・生活等 ・生活習慣・生活環境・生活歴 ・家族背景・家族歴 ・治療・疾患に関する状況</p>

一般目標	行動目標	実習内容
	<p>4) 対象の日常生活が阻害されている部分に対する援助ができる。</p> <p>5) 疾病コントロールに向けたセルフケア能力を高める援助ができる。</p>	<p>(1) 残存機能を生かした日常生活援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練を日常生活に取り入れた援助・指導 ・障害の程度・廃用性萎縮の予防・ADLの拡大 <p>(2) 日常生活が阻害されていることで生じる苦痛の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的資源の活用 ・他部門との連携 ・継続看護 <p>(3) 家族が患者を支えられるような支援</p> <p>(4) 入院に伴う問題に対する援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境への適応 ・二次的障害・合併症の予防 <p>(5) 安全・安楽を考慮した援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安楽を阻害する因子 ・危険因子の予測・予防・軽減 <p>(6) 家庭内・職業的役割・経済面への影響</p> <p>(1) 指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象に必要な指導内容 ・効果的な指導方法の選択、実施 ・指導効果の評価 <p>(2) 家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神面・知識、技術 <p>(3) 社会資源の活用・他部門との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続看護 <p>(4) 自立や自発的な行動への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己効力感を高める働きかけ ・行動変容

4. 実習時間（単位）

総時間 90 時間 （2 単位）2 学年

- 1) 臨地実習（病棟）66 時間
- 2) 学内実習 24 時間（0.53 単位）

目的：臨地実習を振り返り学びを深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

実習期間および時間

	9:00～9:45	9:45～10:30	10:30～11:15	11:15～12:00	12:00～12:45	13:45～14:30	14:30～15:15	15:15～16:00	16:00～16:45	
1 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
2 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
3 日目	臨地実習					学内実習				
4 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
5 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
6 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
7 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
8 日目	臨地実習					学内実習				
9 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		
10 日目	臨地実習					臨地実習		学内実習		

5. 実習方法

患者一人を受け持ち、看護過程を展開する。

6. 実習記録

- 1) 実習の記録を参考に作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日に提出とする。

7. 実習評価

成人看護学実習 I 評価表を用いて評価する。

成人看護学実習Ⅰ(慢性期)評価表

項目	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数
1	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し記載している。 □社会・家庭での役割の変化 □身体的特徴 □心理的特徴 □文化的特徴	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し記載しているが、不十分な項目が1項目ある	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し記載しているが、不十分な項目が2項目ある	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し記載しているが、不十分な項目が3項目以上ある	0
2	チーム医療における関連部門・関連職種間の連携について知り、チームで行う治療やケアを患者・家族の立場からとらえたうえで、少しいの助言を受け、これからの連携及び看護職としての在り方を考え、記載することができる	チーム医療における関連部門・関連職種間の連携について知り、チームで行う治療やケアを患者・家族の立場からとらえたうえで、少しいの助言を受け、これからの連携及び看護職としての在り方を考え、記載することができる	チーム医療における関連部門・関連職種間の連携について知り、チームで行う治療やケアを患者・家族の立場からとらえたうえで、少しいの助言を受け、これからの連携及び看護職としての在り方を考え、記載することができる	チーム医療における関連部門・関連職種間の連携について知り、チームで行う治療やケアを患者・家族の立場からとらえたうえで、少しいの助言を受け、これからの連携及び看護職としての在り方を考え、記載することができる	0
3	受け持つまでの経過を全て記載している。 □診断書 □既往歴 □現病歴 □症状 □治療方針 □看護方針	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が1項目ある	受け持つまでの経過を記載しているが、2項目不十分である	受け持つまでの経過を記載しても3項目以上記載していない	1
4	入院前の日常生活を以下の項目に沿って情報収集している。 □清潔 □食事 □睡眠 □排泄 □アレルギイ □補綴 □歩行 □身体機能検査 □ADL・セルフケア	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が4~7項目ある	入院前の日常生活について、左記のいくつかの項目について情報を収集しているが、不十分な項目が8項目以上ある	2
5	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の二つの特長を用いてすべての項目について情報を整理している	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の二つの特長を用いて情報を整理しているが、不十分な項目が1~3項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の二つの特長を用いて情報を整理しているが、不十分な項目が4~8項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の二つの特長を用いて情報を整理しているが、不十分な項目が9項目以上ある	2
6	必要の援助を考慮し、適切な介入をアセスメントし、必要の援助を考へることができている	必要の援助を考へることができているが、不十分な項目が1~2項目ある	必要の援助を考へることができているが、不十分な項目が3~5項目ある	必要の援助を考へることができているが、不十分な項目が6項目以上ある	2
7	対象者の病歴・現病歴・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理している。 □症状・状態の観察 □治療方針・治療内容 □病歴	対象者の病歴・現病歴・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な箇所が1項目のうち1~2項目ある	対象者の病歴・現病歴・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な箇所が2項目のうち3項目ある	対象者の病歴・現病歴・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理できない	2
8	関連図において必要な情報の記載が、十分な項目が1~3項目ある	関連図において必要な情報の記載が、不十分な項目が1~3項目ある	関連図において必要な情報の記載が、不十分な項目が4~7項目ある	関連図において必要な情報の記載が、不十分な項目が8項目以上ある	2
9	健康問題の優先順位を決定し、優先度の高いものから優先順位を決定している	健康問題の優先度の高いものから優先順位を決定している	健康問題の優先順位を決定するために2以上の助言を要す	健康問題の優先順位を決定できない	2
10	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され対象と家族の状況に適った具体的な看護計画を立案する	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され対象と家族の状況に適った具体的な看護計画を立案している	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適った具体的な看護計画を立案しているが、具体的な項目がない	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適った具体的な看護計画を立案していない	2
11	解決策は原則に誘導するが、具体的な行動内容をSWITHで記載している	解決策は原則に誘導するが、具体的な行動内容をSWITHで記載している	解決策は具体的な項目に記載している	かなりの助言を受けて、解決策は具体的に記載できない	1
12	1日の行動目標は看護計画に基づき、援助によって期待される患者の状態(1日の生活や治療・処置など)を考慮しながら、実習時間内のタイムスケジュールを記載している	1日の行動目標は看護計画に基づき設定され、記載しているが、1日で達成可能な目標でない ・患者の1日の生活や治療・処置などを考慮しながら、実習時間内のタイムスケジュールを記載している ・行動計画は、行動内容を記載しているが、一部不足がある	1日の行動目標は看護計画に基づき設定され、記載しているが、1日で達成可能な目標でない ・患者の1日の生活や治療・処置などを考慮しながら、実習時間内のタイムスケジュールを記載しているが、具体的な項目がない ・行動計画は、行動内容を記載しているが、一部不足がある	看護計画に基づいた1日の行動目標を設定していない ・実習時間内のタイムスケジュールを記載していない ・行動計画を記載していないことがある	1
13	看護実践時、患者・家族の話をよく聞き理解すると共に、自分の考えや思いを相手に分かるように伝えている	看護実践時、患者・家族の話をよく聞き理解しているが、理解が浅い ・自分の考えや思いを伝えているが、分かりづらい ・必要物品や方法の工夫など不足なところがあるため、個別性ある援助を行うためのかなりの助言を要す	看護実践時、患者・家族の話をよく聞き理解しているが、理解が浅い ・自分の考えや思いを伝えているが、分かりづらい ・必要物品や方法の工夫など不足なところがあるため、個別性ある援助を行うためのかなりの助言を要す	看護実践時、患者・家族の話をよく聞き理解していない ・自分の考えや思いを伝えない ・看護実践時は患者・家族の話をよく聞き取れない ・プライバイシーに配慮していない	0
14	患者のセルフケア能力をいまい、危険を予測して安全に看護実践している	患者のセルフケア能力をいまい、危険を予測して安全に看護実践している	患者のセルフケア能力をいまい、危険を予測して安全に看護実践しているが、危険を予測して安全に看護実践していない	患者のセルフケア能力をいまい、危険を予測して安全に看護実践していない	1
15	計画内容や看護に看護した内容の対比表を作成し記載している	患者の反応に看護した内容の対比表を作成し記載している	患者の反応の記載が一部不十分である ・患者に合わせて、どのように看護技術を提供したかについて評価・記載しているが、不十分な項目が1項目ある ・予定された計画以外に突発的に入った検査や治療などに対し、患者の反応を踏まえ記載しているが、一部不十分である	自己の看護内容と患者の反応の対比を作成し記載していない ・計画の内容に合わせて、どのように看護技術を提供したかについて評価・記載しているが、不十分な項目が2項目以上ある	1
16	対象者の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時修正できる	対象者の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時修正できる	対象者の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時修正できる	対象者の反応や観察した結果から計画や援助方法の妥当性を評価し、必要時修正できない	2
17	看護実践時、必要に応じて看護技術を習得している	看護実践時、必要に応じて看護技術を習得している	看護実践時、必要に応じて看護技術を習得しているが、一部の看護技術が習得できていない	看護実践時、必要に応じて看護技術を習得していない	1
18	自分の看護実践について振り返り、早期に解決しようとしている	自分の看護実践について振り返り、早期に解決しようとしている	自分の看護実践について振り返り、早期に解決しようとしているが、一部の看護実践について振り返りができていない	自分の看護実践について振り返りができていない	0
19	より良い看護実践を促すために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話すことができている	より良い看護実践を促すために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話すことができている	より良い看護実践を促すために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話すことができている	より良い看護実践を促すために実習グループ内で、自らの経験・困り事・よくできた事などを話すことができている	0
20	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出勤している	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出勤している	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出勤している	自らの体調を整えて実習に臨み、全日出勤できない	
合計					7/100点

成人看護学実習Ⅱ（終末期）／2学年

1. 実習目的

成人期にある人の特徴をふまえ、近い将来死を免れない対象および家族を総合的に理解し、苦痛緩和と QOL の維持向上のための看護実践ができる能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 成人期の特徴をふまえ、終末期にある対象を多面的に捉えることができる。
- 2) 患者・および家族の全人的苦痛を捉え、苦痛の緩和と QOL 維持向上のため安全・安楽を考慮した看護が実践できる。
- 3) 患者・家族に対し、倫理的配慮をした行動がとれる。

3. 実習内容

一 般 目 標	行 動 目 標	実 習 内 容
1. 成人期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標 1)	1) 成人期の特徴をふまえて対象の発達課題について述べるができる。	(1)成人のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期－身体的な成熟 第二性徴 アイデンティティの形成 職業の選択 ・ 壮年期－加齢に伴う身体的機能 体力の低下 生活習慣病の発生頻度の高さ アイデンティティの確立 社会的役割によるストレス 社会・家庭での責任のある役割 ・ 向老期－身体的機能の低下 生殖機能の低下（更年期） アイデンティティの再体制化 社会・家庭での役割の変化 (2)文化的・霊的特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 価値観 ・ 死生観 ・ 宗教 ・ セクシュアリティ ・ 慣習 ・ 自己実現の欲求

一般目標	行動目標	実習内容
<p>2. 終末期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標 1、2)</p>	<p>1) 終末期の対象の身体的・精神的・社会的・文化的・霊的状态、全人的苦痛について述べるができる。</p>	<p>(1)終末期の身体的状態 ・病態生理、治療、検査について ・倦怠感、疼痛、食欲不振、便秘、不眠、呼吸困難、悪心嘔吐など</p> <p>(2)終末期の精神的状态 ・不安、恐怖、怒り、孤独感、うつ状態など</p> <p>(3)終末期の社会的状態 ・就業の状況、経済的状态、家庭の状況、人間関係など</p> <p>(4)終末期の文化・霊的状态 ・人生の意味への問い、価値体系の変化、苦しみの意味、罪の意識、死の恐怖、生死観に対する悩みなど</p>
<p>3. 終末期の対象に関わる家族の状況について理解する。 (実習目標 2)</p>	<p>1) 家族の身体的・精神的・社会的・文化的・霊的状态、全人的苦痛について述べるができる。</p>	<p>(1)家族の身体的状況 ・看病疲れ、動悸、不眠、食欲不振、倦怠感など</p> <p>(2)家族の精神的状态 ・予期悲嘆、不安、つらさ、無力感、ストレス</p> <p>(3)家族の社会的状況 ・仕事の調整、経済的状态、家庭の状況、人間関係など</p> <p>(4)家族の文化・霊的状态 ・自分を責める、生きる意味、無力感など</p>
<p>4. 成人期の特徴や健康レベルの状況を把握し、計画的に看護を実践する。 (実習目標 2、3)</p>	<p>1) 対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について述べるができる。</p> <p>2) 対象の基本的ニーズの充足状況について述べるができる。</p> <p>3) 対象の全体像を把握し、説明することができる。</p>	<p>(1)病態生理の把握 (2)症状、状態の観察 (3)治療方針、検査・治療内容</p> <p>(1)基本的ニーズの観察 (2)基本的ニーズの充足、未充足</p> <p>(1)人間像・生活像・病態像 ・日常生活（食事、排泄、清潔、活動、睡眠、生活など） ・生活習慣、生活環境、生活歴 ・家族背景、家族歴</p>

一般目標	行動目標	実習内容
	<p>4) 対象の希望を尊重し、全人的苦痛を緩和するための援助や、安全安楽を考慮した日常生活援助を実践できる。</p> <p>5) 家族の心理状態を把握し信頼関係を築くことができる。</p>	<p>(1)症状や状態、健康段階に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位の工夫 ・マッサージ、巻法 ・コミュニケーションによる苦痛の緩和 ・効果的な鎮痛剤と薬の工夫と副作用対策 ・基本的ニーズの充足に対する援助 ・安全安楽に配慮した日常生活援助 ・セルフケア能力を最大限活用し、自尊心に配慮した援助 <p>(2)精神的援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語的、非言語的に表出する患者の心情と行動の意味の把握 ・心理的援助の基本的技術（感情を受け止める、傾聴、共感的態度、あたたかい見守り） <p>(3)発達段階に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各期の身体的、精神的、社会的、文化的、霊的特徴をふまえた援助 <p>(1)家族の状態に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のニーズの把握と充足 ・予期悲嘆への援助

4. 実習時間（単位）

総時間：90 時間（2 単位）

1) 臨地実習 66 時間

2) 学内実習 24 時間（0.53 単位）

目的：臨地実習での学びを深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向性について話し合い、翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと、看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。

（看護計画は3日目の13：45～16：45に立案する）

実習期間および時間

	9:00～9:45	9:45～10:30	10:30～11:15	11:15～12:00	12:00～12:45	13:45～14:30	14:30～15:15	15:15～16:00	16:00～16:45
1日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
2日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
3日目	臨地実習					学内実習			
4日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
5日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
6日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
7日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
8日目	臨地実習					学内実習			
9日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
10日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	

5. 実習方法

- 1) 患者一人を受け持ち、看護過程を展開する。

6. 実習記録

- 1) 実習記録の様式を参照し、実習ノートを作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日に提出とする。

7. 実習評価

成人看護学実習Ⅱ評価表を用いて評価する。

成人看護学実習Ⅱ(終末期)評価表

項目	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2-0点	点数
1	終末期患者の死の受容過程、治療、ケアの多様性について記載している	終末期患者の死の受容過程、治療、ケアの多様性について3項目述べている	終末期患者の死の受容過程、治療、ケアの多様性について2-1項目述べている	終末期患者の死の受容過程、治療、ケアの多様性についてかなりの助言を受け、内容を記載できる	0
2	成人期ライフサイクルにおける特徴について述べることができる	成人期ライフサイクルにおける特徴について3項目述べている	成人期ライフサイクルにおける特徴について2-1項目述べている	成人期ライフサイクルにおける特徴について述べることができない	0
3	受け持つまでの経過を全て記載している	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が1項目ある	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が2項目ある	受け持つまでの経過を記載しているが、不十分な項目が3項目以上ある	0
4	入院前の日常生活について情報収集している	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報収集しているが、内容が不足している。または、左記項目のいずれかの情報の不十分な項目が1-3項目ある	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報収集しているが、内容が不足している。または、左記項目のいずれかの情報の不十分な項目が4-7項目ある	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報収集しているが、内容が不足している。または、左記項目のいずれかの情報の不十分な項目が8項目以上ある	1
5	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の2-3の枠組みを用いてすべての項目における情報整理している	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の2-3の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が1-3項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の2-3の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が4-8項目ある	ヘンダーソンの看護理論に基づいた4項目の2-3の枠組みを用いて情報を整理しているが、不十分な項目が9項目以上ある	2
6	収集した2-3の情報を、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができる	収集した2-3の情報のから、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができるが、不十分な項目が1-3項目ある	収集した2-3の情報のから、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができるが、不十分な項目が4-8項目ある	収集した2-3の情報のから、充足の度合いをアセスメントし、必要な援助を考へることができるが、不十分な項目が9項目以上ある	2
7	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理している	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1-2項目ある	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が3項目ある	対象の病態生理、症状、検査、治療、処置について図や表を用いてわかりやすく整理できる	2
8	関連図において必要な情報の記載があり、看護計画に反映させることができる	関連図において必要な情報の記載があり、看護計画に反映させることができるが、不十分な項目が1-3項目ある	関連図において必要な情報の記載があり、看護計画に反映させることができるが、不十分な項目が4-8項目ある	関連図において必要な情報の記載があり、看護計画に反映させることができるが、不十分な項目が9項目以上ある	2
9	問題点の明確化、根拠を持って優先度の高いものから優先順位を決定している	問題点の明確化、根拠を持って優先度の高いものから優先順位を決定しているが、不十分な項目が1-3項目ある	問題点の明確化、根拠を持って優先度の高いものから優先順位を決定しているが、不十分な項目が4-8項目ある	問題点の明確化、根拠を持って優先度の高いものから優先順位を決定しているが、不十分な項目が9項目以上ある	2
10	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立案する	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立案しているが、不十分な項目が1-3項目ある	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立案しているが、不十分な項目が4-8項目ある	対象と家族の思いや価値観、人生観が反映され、対象と家族の状況に適した具体的な看護計画を立案しているが、不十分な項目が9項目以上ある	2
11	解決策は原則として、患者の安全を最優先とし、患者の価値観を尊重する	解決策は原則として、患者の安全を最優先とし、患者の価値観を尊重しているが、不十分な項目が1-3項目ある	解決策は原則として、患者の安全を最優先とし、患者の価値観を尊重しているが、不十分な項目が4-8項目ある	解決策は原則として、患者の安全を最優先とし、患者の価値観を尊重しているが、不十分な項目が9項目以上ある	2
12	計画立案	1日の行動目標は看護計画に基づき設定され、記載しているが、1日で達成可能な目標ではない	1日の行動目標は看護計画に基づき設定され、記載しているが、1日で達成可能な目標ではない	1日の行動目標は看護計画に基づき設定され、記載しているが、1日で達成可能な目標ではない	1
13	看護実践	看護実践は、患者の話をよく聞いて理解し、自分の考えや思いを相手に伝えることができる	看護実践は、患者の話をよく聞いて理解し、自分の考えや思いを相手に伝えることができるが、不十分な項目が1-3項目ある	看護実践は、患者の話をよく聞いて理解し、自分の考えや思いを相手に伝えることができるが、不十分な項目が4-8項目ある	0
14	評価	対象者の「最期の迎えかた」について助言を受けて、自己決定できる情報提供ができ、思いを止められる	対象者の「最期の迎えかた」について助言を受けて、自己決定できる情報提供ができ、思いを止められる	対象者の「最期の迎えかた」について助言を受けて、自己決定できる情報提供ができ、思いを止められる	0
15	報告	計画内容に合わせた適切なタイミングで報告している	計画内容に合わせた適切なタイミングで報告しているが、不十分な項目が1項目ある	計画内容に合わせた適切なタイミングで報告しているが、不十分な項目が2項目ある	1
16	修正	必要時、必要に応じて計画を修正する	必要時、必要に応じて計画を修正するが、不十分な項目が1項目ある	必要時、必要に応じて計画を修正するが、不十分な項目が2項目ある	2
17	報告	看護師と教員に報告・相談している	看護師と教員に報告・相談しているが、不十分な項目が1項目ある	看護師と教員に報告・相談しているが、不十分な項目が2項目以上ある	1
18	主体性	自分の課題を理解し、学習を進めている	自分の課題を理解し、学習を進めているが、不十分な項目が1項目ある	自分の課題を理解し、学習を進めているが、不十分な項目が2項目以上ある	0
19	出席	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よくてきた事などを話し合える	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よくてきた事などを話し合えるが、不十分な項目が1項目ある	より良い看護実践をするために実習グループ内で、自らの経験、困り事、よくてきた事などを話し合えるが、不十分な項目が2項目以上ある	0
20	出席	自らの体調を整えて実習に参加し、全日出席している	自らの体調を整えて実習に参加し、全日出席しているが、不十分な項目が1項目ある	自らの体調を整えて実習に参加し、全日出席しているが、不十分な項目が2項目以上ある	0

合計					/100点
----	--	--	--	--	-------

成人看護学実習Ⅲ（周術期）/3学年

1. 実習目的

成人期にある人の特徴をふまえ、周術期にある患者を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる能力を養う。

2. 実習目標

- 1) 周術期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。
- 2) 術後合併症や異常の早期発見に向けたアセスメントができる。
- 3) 患者の生命維持と合併症予防、回復状態に合わせた日常生活自立のための看護を計画的に実践し、評価する能力を養う。
- 4) 周術期に応じた不安の緩和・闘病意欲の維持増進に対する支援が理解できる。
- 5) 周術期における多職種連携について理解することができる。

3. 実習内容

一般目標	行動目標	実習内容
<p>1. 成人期の特徴をふまえて対象を理解する。 (実習目標1)</p>	<p>1) 成人期の特徴をふまえて対象の発達段階について述べることができる。</p>	<p>(1)成人のライフサイクルにおける身体的・精神的・社会的特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青年期－身体的な成熟 第二次性徴 アイデンティティの形成 職業の選択 ・壮年期－加齢に伴う身体的機能 体力の低下 生活習慣病の発生頻度の高さ アイデンティティの確立 社会的役割によるストレス 社会・家庭での責任のある役割 ・向老期－身体的機能の低下 生殖機能の低下（更年期） アイデンティティの再体制化 社会・家庭での役割の変化 <p>(2)文化的・霊的特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観 ・死生観 ・宗教 ・セクシュアリティ ・慣習 ・自己実現の欲求
<p>2. 身体の状態を観察し、術後合併症や正常・異常が理解できる。 (実習目標2)</p>	<p>1) 術前の情報から術後に予測される合併症を述べることができる。</p> <p>2) 異常の早期発見のための観察項目を述べるができる。</p>	<p>(1)身体的特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激な身体状況の変化 ・治療による身体的影響 ・手術侵襲による生体反応 ・手術による形態・機能の変化 ・痛みなどの苦痛 <p>(2)患者の術後の状態予測</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術式、手術操作、麻酔、術後管理に関連する合併症

一般目標	行動目標	実習内容
<p>3. 患者の生命維持と合併症予防、回復状態に合わせた日常生活自立のための看護を計画的に実践する。 (実習目標 3)</p>	<p>3) 身体の状態を観察し正常・異常の判断ができる。</p> <p>1) 安全に手術が受けられるための援助を述べる ことができる。</p> <p>2) 術後回復段階に応じた目標を設定することができる。</p> <p>3) 術後回復段階に応じた援助が実施できる。</p> <p>4) 症状緩和への援助が実施できる。</p> <p>5) 実施前・実施中・実施後の患者の反応や状態の変化を観察しながら援助ができる。</p> <p>6) 振り返りから看護計画を追加・修正し、翌日の援助に活かすことができる。</p>	<p>(3) 全身状態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻酔の覚醒状況、意識レベル ・バイタルサイン ・創・ドレーン類と出血・排液の観察 ・輸液の観察 ・水分出納 ・呼吸・循環・腎臓能の状態 ・検査データ <p>(1) 術前の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術前オリエンテーション ・手術に向けた身体準備 <ul style="list-style-type: none"> 禁煙、深呼吸の方法、喀痰排出方法 消化管前処置 飲食・水分制限 全身の清浄化処置 ・手術後ベッドの作成と病床準備 ・手術室への入室 <p>(2) 日常生活援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸・循環の援助 ・早期体動・離床促進の援助 ・創傷治癒の援助 ・睡眠・食・衣生活の援助 ・清潔・衣生活の援助 <p>(3) 術後合併症予防の援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺合併症予防 ・循環不全予防の援助 ・イレウス予防の援助 ・術後感染予防 ・縫合不全予防の援助 ・肺塞栓症と深部静脈血栓症予防 ・術後せん妄予防の援助 <p>(4) 症状緩和への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位調整 ・含嗽 ・冷罨法・温罨法 ・鎮痛剤使用とその効果 <p>(5) 病態生理の把握</p> <p>(6) 症状、状態の観察</p> <p>(7) 治療方針、検査・治療内容</p> <p>(8) 基本的ニードの観察</p> <p>(9) 基本的ニードの充足、未充足</p> <p>(10) 人間像・生活像・病態像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の自立状況 食事・排泄・清潔・活動・睡眠・衣生活等 ・生活習慣・生活環境・生活歴 ・家族背景・家族歴 <p>(11) 症状や状態、健康段階に応じた援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周手術期—手術前準備の援助・手術後の疼痛管理・術後合併症予防・発症時の援助

一般目標	行動目標	実習内容
<p>4. 周術期における不安の緩和や闘病意欲の維持増進に対する支援を理解する。 (実習目標 4)</p> <p>5. 保健医療チームの連携について理解する。 (実習目標 5)</p>	<p>1) 手術に伴う形態・機能の変化に対して適応するための援助を述べることができる。</p> <p>1) 保健医療チームの連携と看護師の役割について述べることができる。</p>	<p>(12) 成長・発達段階に応じた援助 ・各期の身体的・精神的・社会的特徴をふまえた援助</p> <p>(13) 安全・安楽を考慮した援助 ・安全・安楽を阻害する因子 ・危険因子の予測・予防・軽減</p> <p>(14) 残存機能を生かした援助 ・障害の程度・廃用性萎縮の予防・A DLの拡大</p> <p>(15) 自立や自発的な行動への援助 ・自己効力感を高める働きかけ ・行動変容</p> <p>(16) 入院に伴う問題に対する援助 ・環境への適応 ・二次的障害・合併症の予防 ・家庭内・職業的役割・経済面への影響 ・家族に及ぼす、心理的社会的影響</p> <p>(1) 患者への精神的援助 ・精神的危機 ・インフォームドコンセントへの支援 ・不安の緩和 ・ボディイメージの変容、機能障害に対する変容</p> <p>(2) 患者に必要な生活支援・退院支援 ・生活習慣変更に伴うもの ・疾患の発症や手術に伴う身体の形態・機能の変化が対象に及ぼす精神的・社会的影響 ・退院指導と継続看護 ・在宅療養に向けての看護</p> <p>(1) 保健医療チームとの連携 ・医師、看護師、薬剤師、検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士等の役割、情報提供と共有</p>

4. 実習時間 (単位)

総時間 90 時間 (2 単位) 2 学年

- 1) 臨地実習 (病棟) 66 時間
- 2) 学内実習 24 時間 (0.53 単位)

目的：臨地実習を振り返り学びを深める。

内容：①実習グループごとに担当教員と共にミーティングを行い、援助の方向について話し合い翌日の援助につなげる。

②受け持ち患者の看護を実践するために不足している学習を進める。また、技術練習の機会とする。

③教員の指導のもと看護計画の立案や修正、実習の記録を整理する。
(看護計画は 3 日目の 13:45~16:45 に立案する)

実習期間および時間

	9:00~9:45	9:45~10:30	10:30~11:15	11:15~12:00	12:00~12:45	13:45~14:30	14:30~15:15	15:15~16:00	16:00~16:45
1日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
2日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
3日目	臨地実習					学内実習			
4日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
5日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
6日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
7日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
8日目	臨地実習					学内実習			
9日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	
10日目	臨地実習					臨地実習		学内実習	

5. 実習方法

周術期の患者一人を受け持ち、看護過程を展開する。

6. 実習記録

- 1) 実習の記録を参考に作成する。
- 2) 実習記録は実習終了後、記録内容を整理し、実習終了の翌日に提出とする。

7. 実習評価

成人看護学実習Ⅲ評価表を用いて評価する。

成人看護学実習Ⅶ(周術期)評価表

項目	評価基準 5点	評価基準 4点	評価基準 3点	評価基準 2~0点	点数
1	以下の内容をふまえて、手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。	以下の内容をふまえて、手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。	以下の内容をふまえて、手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。	以下の内容をふまえて、手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。 手術前の潜在的な問題と手術後の潜在的な問題をアセスメントし、介入の優先順位を決定し、看護計画を立案し、実施し、評価する。	0
2	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し、記載しているが、不十分な項目が1項目ある。	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し、記載しているが、不十分な項目が1項目ある。	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し、記載しているが、不十分な項目が1項目ある。	成人のライフサイクルにおける特徴を理解するために、必要な情報を整理し、記載しているが、不十分な項目が1項目ある。	0
3	受け持つまでの経過を記録しているが、不十分な項目が1項目ある。	受け持つまでの経過を記録しているが、不十分な項目が1項目ある。	受け持つまでの経過を記録しているが、不十分な項目が1項目ある。	受け持つまでの経過を記録しているが、不十分な項目が1項目ある。	0
4	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。 入院前の日常生活について、左記のすべての項目について情報を収集しているが、不十分な項目が1~3項目ある。	1
5	ヘンダーソンの看護理論に基づき4項目の二つの枠組みを用いて情報を収集しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	ヘンダーソンの看護理論に基づき4項目の二つの枠組みを用いて情報を収集しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	ヘンダーソンの看護理論に基づき4項目の二つの枠組みを用いて情報を収集しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	ヘンダーソンの看護理論に基づき4項目の二つの枠組みを用いて情報を収集しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	2
6	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	対象の病態生理・症状・検査・治療・処置について図や表を用いてわかりやすく整理しているが、不十分な項目が1~2項目ある。	2
7	関連図において必要な情報が記載されているが、不十分な項目のうち不十分な項目が1項目以上ある。	関連図において必要な情報が記載されているが、不十分な項目のうち不十分な項目が1項目以上ある。	関連図において必要な情報が記載されているが、不十分な項目のうち不十分な項目が1項目以上ある。	関連図において必要な情報が記載されているが、不十分な項目のうち不十分な項目が1項目以上ある。	2
8	助言を受けて健康問題の優先順位を決定しているが、優先順位が決定していない項目がある。	助言を受けて健康問題の優先順位を決定しているが、優先順位が決定していない項目がある。	助言を受けて健康問題の優先順位を決定しているが、優先順位が決定していない項目がある。	助言を受けて健康問題の優先順位を決定しているが、優先順位が決定していない項目がある。	0
9	長期目標と短期目標を記載しているが、内容が患者に合っていない項目が1~2項目ある。	長期目標と短期目標を記載しているが、内容が患者に合っていない項目が1~2項目ある。	長期目標と短期目標を記載しているが、内容が患者に合っていない項目が1~2項目ある。	長期目標と短期目標を記載しているが、内容が患者に合っていない項目が1~2項目ある。	2
10	看護計画を立案しているが、計画内容が不十分な箇所が3カ所以上ある。	看護計画を立案しているが、計画内容が不十分な箇所が3カ所以上ある。	看護計画を立案しているが、計画内容が不十分な箇所が3カ所以上ある。	看護計画を立案しているが、計画内容が不十分な箇所が3カ所以上ある。	2
11	SWiTHにはなっていないが、解決策は具体的に記載している。	SWiTHにはなっていないが、解決策は具体的に記載している。	SWiTHにはなっていないが、解決策は具体的に記載している。	SWiTHにはなっていないが、解決策は具体的に記載している。	1
12	1日の行動目標を看護計画に基づき、援助によって期待される患者の状態(1日)の達成が確認でき、看護計画に記載している。	1日の行動目標を看護計画に基づき、援助によって期待される患者の状態(1日)の達成が確認でき、看護計画に記載している。	1日の行動目標を看護計画に基づき、援助によって期待される患者の状態(1日)の達成が確認でき、看護計画に記載している。	1日の行動目標を看護計画に基づき、援助によって期待される患者の状態(1日)の達成が確認でき、看護計画に記載している。	1
13	援助や手術による反応を系統的に観察し、状態に応じた回復を促すための助言を効果的に実施している。	援助や手術による反応を系統的に観察し、状態に応じた回復を促すための助言を効果的に実施している。	援助や手術による反応を系統的に観察し、状態に応じた回復を促すための助言を効果的に実施している。	援助や手術による反応を系統的に観察し、状態に応じた回復を促すための助言を効果的に実施している。	1
14	患者・家族の話をよく傾聴し、自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	患者・家族の話をよく傾聴し、自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	患者・家族の話をよく傾聴し、自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	患者・家族の話をよく傾聴し、自分の考えや思いを相手に伝えることができる。	0
15	計画内容と実際の対応を比較し、評価し、記載している。	計画内容と実際の対応を比較し、評価し、記載している。	計画内容と実際の対応を比較し、評価し、記載している。	計画内容と実際の対応を比較し、評価し、記載している。	1
16	患者の状態を把握し、立案した計画や目標を患者に合わせて修正している。	患者の状態を把握し、立案した計画や目標を患者に合わせて修正している。	患者の状態を把握し、立案した計画や目標を患者に合わせて修正している。	患者の状態を把握し、立案した計画や目標を患者に合わせて修正している。	2
17	報告・連絡・相談が適切に行われている。	報告・連絡・相談が適切に行われている。	報告・連絡・相談が適切に行われている。	報告・連絡・相談が適切に行われている。	1
18	自己の専門性を発揮し、学習を進めている。	自己の専門性を発揮し、学習を進めている。	自己の専門性を発揮し、学習を進めている。	自己の専門性を発揮し、学習を進めている。	0
19	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	0
20	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	実習グループ内で、自ら積極的に発言し、必要に応じて、必要な対応をしている。	0
合計					/100点